



# 禁煙ジャーナル

■発行人 一般社団法人 タバコ問題情報センター [代表理事・渡辺文学]

No. 356

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 2-1-4 九段セントラルビル 203

TEL: 03-3222-6781 FAX: 03-3222-6780

《郵便振替》00120-0-159803 【印刷】遠藤印刷 1部500円

## 「知識・経験共有」目指した 第17回日本禁煙学会学術総会 ～注目の「禁煙支援の対話技術」～

日本禁煙学会の第17回学術総会は、10月28日～11月26日の間、「オンデマンド動画配信」という新企画を採用、特別講演、記念講演、各種シンポジウム及び研究結果の発表など実施。一方、11月11・12の両日は神奈川県薬剤師会館に参集、ディスカッションのみを行うという、これまでにないユニークな形態となりました。オンデマンドで講演をされた方は、①ステファン・ロルニック氏（「禁煙支援のための動機づけ面接」の創始者《特別講演》）②松沢成文参議院議員（タバコ事業の利権の構造を鋭く追及）③作田学理事長（現在抱えているタバコ問題の主要テーマを報告）。また、日本禁煙学会の理事、評議員及び会員有志からの貴重な調査・研究についてもアップされ、約700名以上の参加者が視聴したことで、「知識・経験共有」にも貢献しました。総会の概要報告を寄稿頂いた加濃正人実行委員長に厚く御礼申し上げます。（渡辺文学）

### オンデマンド動画配信の新企画

第17回日本禁煙学会学術総会  
実行委員長 加濃 正人



2023年10月28日～11月26日（当日ディスカッションは11月11日・12日）の日程で「第17回日本禁煙学会学術総会」が盛況のうちに終了しました。総会のテーマは「禁煙推進の連携と協働」でした。

このテーマは、禁煙活動の成功には多様な分野や

組織間の緊密な連携と協働が不可欠であることを象徴しています。医療専門家だけでなく、教育専門家、法曹関係者、コミュニティリーダーなど、異なる背景を持つ参加者が一堂に会し、禁煙推進における共通の目標に向けて知識と経験を共有する重要な機会となりました。

開催運営においても、日本禁煙学会を主催としながらも、禁煙・受動喫煙防止活動を推進する神奈川県会議、および神奈川県医師会の共催の元、3団体が連携して開催準備を進めて参りました。



●ビューイング会場の神奈川県薬剤師会館（根岸）

テーマを十全に追求できるよう、これまでにない形式を採用しました。オンデマンド動画配信と、Zoomディスカッションを組み合わせることにより十分なボリュームの講演や話題提供と、リアルタイムなディスカッションを両立できました。特に、直前に発案されて急遽組み込まれましたエクストラZoomミーティングの実施は、多くの演者、参加者の方々から高い評価をいただきました。

#### ■有益だったロルニック氏の講演

本学術総会のエポックメイキングは、動機づけ面接の創始者であるステファン・ロルニック氏の特別講演でした。これまでさまざまな団体が彼の招聘を試みてきましたが、残念ながら成功には至りませんでした。

—\* 1頁からの続き—

しかし、今回92分間の講義として、氏を招聘するという念願を実現することができました。この講演は、禁煙支援における対話技術とその効果についての新たな視点を提供し、非常に有益な経験となったことを確信しております。

また、松沢成文氏による講演も、現在の法整備と国内情勢の推移を踏まえて非常に有益な内容でした。神奈川県知事時代に推進した受動喫煙防止条例に関する氏の経験は、地方自治体レベルでの禁煙政策の実践例として、他の自治体や政策立案者にとって貴重な事例となりえます。

禁煙推進の基盤となる概念（社会格差、ナッジ、ヘルスリテラシー、ライフスキル）に焦点を当てることで、禁煙啓発や防煙教育の新しい方向性を探求しました。これらのテーマは、禁煙活動が単に健康情報の提供に留まらず、行動変容を促すためのより幅広いアプローチを必要とすることを示しています。

### ■新たな知見と技術に注目

心理学、看護、薬剤師、母子保健、職場の禁煙、食と栄養、歯科の7部会では、それぞれ独自のプログラムを提供し、参加者に多角的な視点からの学びを提供しました。これらのプログラムは、禁煙支援の多面的なアプローチを反映しており、参加者にとって新たな知見と技術を身につける絶好の機会となりました。

本稿執筆時点（11月15日）では、オンデマンド配信と参加登録が続いていますが、既に750名以上の方にご参加いただきました。11月11日・12日の当日ディスカッションにも540名以上の方が参加され、活発な意見交換が行われました。

これらの数字は、総会の幅広い魅力と、禁煙推進に対する強い関心を示しています。

本学術総会の成功は、演者、座長、参加者、そして運営を支えたすべての関係者のおかげです。深く感謝申し上げます。

第18回禁煙学会学術総会は、来年11月に鳥取県米子市で対面開催を予定しているとのことです。

今後とも引き続きのご支援とご参加をお願いします。

【かのう・まさと＝日本禁煙学会理事／禁煙・受動喫煙防止活動を推進する神奈川会議会長】



2 ●11・12の両日、ビューイング会場の受付風景

## 紙巻きタバコの環境汚染

ヨーテポリ大学研究グループが発表

紙巻きタバコは喫煙者の身体を汚染するが、タバコの吸い殻は、環境汚染の大きな原因でもある。紙巻きタバコのフィルターはマイクロプラスチックとなるだけでなく、7千種類以上の化学物質で汚染されており、環境汚染をもたらしている。

紙巻きタバコのフィルターは、世界中どこでも見られるゴミとなっている。ヨーテポリ大学の研究者らは、吸い殻のフィルターが劣化してマイクロプラスチックとなり、数千種類の化学物質を海洋に放出し、水生幼虫を危険にさらしていることを突き止めた。

### ■いたる所に吸い殻が

吸い殻は、道路、バス停、公園、海岸にたくさん捨てられている。街角に吸い殻のない風景などほとんどあり得ない。捨てられている吸い殻は、実は、重大な環境汚染をもたらしている。

ヨーテポリ大学の研究チームは、タバコフィルターがマイクロプラスチックと有害化学物質による環境汚染源となり、水生幼虫に障害を与えていることを明らかにした。

ヨーテポリ大学生態毒性学アルムロス教授は「数千種類の化学物質のしみ込んだタバコのフィルターはマイクロプラスチックとなる。まさに有害廃棄物だ」と語った。

### ■水生生物の死亡率増加

タバコのフィルターは蚊の幼虫（ボウフラ）を殺す。この研究は、フィルターに含まれる有害物質が水生蚊の幼虫にどのような影響をもたらすかを調査したもので、結果は *Journal Microplastics and Nanoplastics* に発表された。

その結果、フィルター由来の有毒物質に暴露された水生蚊の幼虫死亡率が20%増加したという。ボウフラだけでなく、吸い殻2本分の有毒物質を含む1リットルの海水に4日間飼われた魚類の死亡率が増加することが分かった。

「タバコフィルターは、環境を汚染する主要なマイクロプラスチック発生源である。生物の生存に大きな悪影響をもたらすことが分かった。欧州連合は、紙巻きタバコのフィルターを有害廃棄物と規定した」とアルムロス教授は語った。

### ■タバコの吸い殻は地上に捨てられる

タバコの吸い殻は地上に捨てられる。来年初めから、タバコ会社にはタバコの吸い殻を回収することが義務付けられる。しかし、灰皿をたくさん作るだけではダメである。専門家たちは、ヨーテポリの喫煙者がタバコの吸い殻をどう扱っているかを調査した。その結果、多くの喫煙者はたとえそばに灰皿があっても、お構いなく地面に投げ捨てていることが分かった。

—\* 3頁右下に続く—

# 「たばこ」と「タバコ」

～辞書はカタカナが主流～

岩手県禁煙推進ネットワーク代表  
小西 一樹

下手くそな文章を新聞や雑誌に投稿することがある。職業柄、生活習慣病や喫煙の害について書くことが多いが、必ず修正される単語がある。

「タバコ」が「たばこ」へとひらがなに交換されて戻ってくる。「たばこ」と平仮名で綴ると字面が優しく感じられる。そのためかどうか、禁煙推進活動をしている仲間たちは、タバコに対する厳しい姿勢を示すためにも「タバコ」とカタカナでの表現を好むようだ。私も例外ではない。

## ■平仮名にこだわるメディア

なぜ新聞・雑誌は平仮名表記にこだわるのだろうか。私が聞いた新聞社の理屈はこうである。

植物のタバコは科学用語であるからカタカナで表記する。「タバコは南米産のナス科の一年草である」と、このように。

しかし、タバコの葉を乾かして発酵させ、喫煙用に加工されたものは「たばこ」であると。紙巻たばこのように加工された製品は「たばこ」であって「タバコ」ではないというのだ。

なるほど、昔の専売公社は現在「日本たばこ産業株式会社」である。すると、タバコを栽培する農家は「タバコ農家」であって「たばこ農家」ではない。乾燥させた「タバコ葉」を出荷する段階で「たばこ農家」に変身するのだろうか。

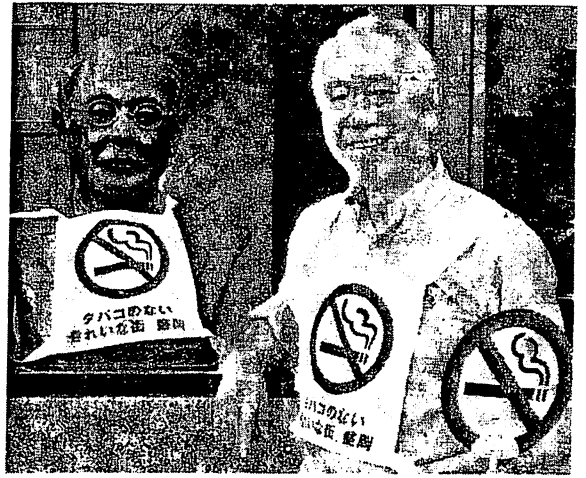
## ■辞書はカタカナ表示だ

屁理屈を言っても仕様がなかったので広辞苑に当たってみた。見出し語はタバコ、カタカナ表記である。「タバコ葉はニコチンを含み、加工して喫煙用とする。わが国には16世紀に九州に渡来。愛煙家＝タバコ好きな人。紫煙＝紫色の煙の意からタバコの煙」。なんと、表記はすべてカタカナではないか。嬉しくなった。

私の持っている広辞苑は1991年11月15日発行の古い第4版だったので、2018年1月12日発行の第7版にも当たってみた。見出し語は「タバコ」、やっぱりカタカナだ。

## ■有害性にも言及

第7版にはさらに第4版にはない次のような説明が加えられている。「葉が含むニコチンは依存性をもたらし、葉を燃やした煙が含む有害物質は喫煙関連疾患の危険因子とされる」。タバコの依存性と健康被害にもきちんと触れている。さすがは広辞苑と、もう一度嬉しくなった。



唯一、広辞苑に例外的に平仮名で表記されているのは「たばこ税」。製造タバコに課する重量税の国税、とある。財務省は平仮名派なんだ、と妙に納得した。

## ■広辞苑以外の辞書は

広辞苑以外の辞書にも当たってみた。角川国語辞典、講談社の現代実用辞典、三省堂書店の大辞林、同じく三省堂の明解国語辞典、岩波国語辞典、タバコの見出し語はすべてカタカナ表記なのだ。私が調べた中では唯一、広辞林（第12版）のみが平仮名表記であった。

新しい広辞苑には電子タバコも見出し語として収載されている。やっぱりカタカナ表記だった。辞書の世界では圧倒的にタバコが優勢である。

こんなことで溜飲を下げても仕様がいないのだけれど、知ってもらいたいことは、タバコは人を殺すということだ。

【こにし・かずき＝盛岡つなぎ温泉病院理事長】



—\* 2頁からの続き—

## ■フィルターそのものを禁止せよ

「街中の吸い殻を拾い集めるには相当なお金がかかる。しかし、それだけでは、環境汚染は減らない。現在われわれは、市民団体の協力のもとに、国内に捨てられているタバコの吸い殻などのプラスチックごみの量を調査していると教授は語る。

教授は、紙巻きタバコにフィルターが必要とは思っておらず科学専門誌に、紙巻きタバコのフィルターが最大の有害ごみの一つであるだけでなく、フィルター付きタバコなら安全に吸うことができると喫煙者をだましてタバコを売りつける悪徳商法の産物に他ならないと述べている。

「タバコ会社に吸い殻の回収コストを義務付けるというのは正しい解決法ではない。捨てられた吸い殻の清掃費用を負担するのは当たり前だが、フィルターそのものを禁止するという根本的対策が必要だ」とアルムロス教授は語った。

【翻訳：松崎道幸（日本禁煙学会理事）】



## 結婚したいなら禁煙を、 ～子や孫ができたなら禁煙を～

ほりメンタルクリニック  
安藤絵美子

わが国における年間婚姻件数が減少の一途を辿っているのは、周知のことである。出会いも、職場や紹介などから、マッチングアプリでの出会いが増えている。同時にお見合いでの結婚も、再び上昇傾向にある（社会保障・人口問題研究所「出生動向基本調査」より）。



結婚相談所を用いたお見合いやマッチングアプリのよさは、自分から相手に希望する条件（年収や身長、年齢など）であらかじめ相手を絞り、最後に写真を見て気になれば気軽にやり取りを申し込めるところである。（なお、アプリでは個人情報自己申告制が基本で、既婚者やネットビジネス業者も紛れているから注意が必要。結婚相談所では、戸籍謄本のある自治体で求められる戸籍謄本による独身証明の提出、必要に応じて課税証明書などまで提出が必要となる）。

### ■両性にとって「避けたい」条件は

両性にとって「避けたい」条件もある。例えば、相手の喫煙状況だ。国内最大の結婚相談所連盟「日本結婚相談所連盟（株式会社IBJ）」の調査「2022年婚活白書」を参照する。これは前年度一年間の加盟活動者のうち2022年成婚者11,269人のデータを集計、分析したものである。

(ibjapan.jp/information/wp-content/uploads/2023/05/IBJ.pdf)

なお、成婚者とは、IBJ結婚ネットワークで成婚退会した人を指す。この時点では入籍しているかはそれぞれだが、結婚の意思を固めて結婚相談所を退会した人々である。

「喫煙と成婚しやすさ-全国-」（アンケートでは対象者が「吸う」「吸わない」「あまり吸わない」で区分されている）によると、男性では成婚者に与る喫煙者（「吸う」「あまり吸わない」の合計）が6.4%であるのに対し、成婚者の「吸わない」割合は、93.7%。身もふたもないほどに「非喫煙者」が成婚につながっている。

女性では一層顕著で、成婚者のうち喫煙者が1%であるのに対し、成婚者における非喫煙者の割合は、99.1%と圧倒的だ。結婚したかったら、男女ともに「結婚したいなら、禁煙を」と提唱したい結果である。

なぜ、喫煙者は結婚しにくいのか。IBJ加入店のDear Bride Tokyoの仲人高橋陽介氏のブログで解説されている。

(<https://ameblo.jp/dearbridgetokyo/entry-12804725341.html>)。

当ブログによると、「喫煙していると婚活難しいのですか?」「タバコ吸っているので婚活厳しいですよ?」と訊かれることはないという。

### ■浸透した「受動喫煙」の被害

しかし、データは明らかに喫煙者の婚活の厳しさを物語っている。理由は5つ挙げられている。煙、臭い、タバコ代、子どもへの影響、デート中のタバコ休憩（原文ママ）である。

健康影響を示唆する理由が挙げられているのは興味深い。受動喫煙は健康面でもマイナスであるという事実は、一般にも広く浸透していることが明らかである。

実際、喫煙者と暮らすということは受動喫煙に常時曝露されているということに他ならない。

読者の皆様には釈迦に説法であるが、厚生労働省のe-ヘルスネット「受動喫煙-他人の喫煙の影響」によると、受動喫煙との関連が「確実」とされている肺がん、虚血性心疾患、脳卒中に加え、乳幼児突然死症候群（SIDS）が挙げられており、煙や臭い以上に受動喫煙が大切な人に深刻な健康影響を与えることがわかる。

何も夫/妻だけではない。もし孫を授かったのなら、孫のSIDSを防ぐにも即禁煙である。

このように、喫煙の健康影響はマナーだけの問題ではなく健康影響も認識されつつある。また、喫煙の影響は我々の生活や人生深くまで浸透している。人生の節目を迎えたら禁煙に踏み切るのを筆者は強く推奨したい。【あんどろ・えみこ】

## 英たばこBAT ロシア事業を売却

英たばこ大手プリティッシュ・アメリカン・タバコ（BAT）は11月7日、ロシアとベラルーシの事業をロシアの経営陣が率いるコンソーシアムに売却すると発表した。

「キャメル」や「ラッキーストライク」などの銘柄を販売するBATは、ロシアのウクライナ侵攻を受けて2022年3月、世界4位のたばこ市場であるロシアから撤退することを約束した。

ロシアで25%弱のシェアを持っていたBATは国内法および国際法に従い、事業売却に正式に合意したと発表。声明で「BATはロシアとベラルーシに拠点を持たず、これらの市場での継続的な販売から金銭的利益を得ることはない」とした。

日本たばこ産業（JT）とフィリップ・モリス・インターナショナル（PMI）は投資・マーケティングの停止や一部事業を縮小しているが、まだ撤退はしていない。【yahooニュース 23.11.8】

## 力作揃いの入選作品(下)

禁煙CMコンテスト審査委員 藤本 祥和

前号では、第1位の「DomiNo Smoking」と第2位の「おぞましい喫煙妖怪ずかん」の2作品のみしか紹介できませんでしたが、本号で、第2位の5作品と第3位の8作品についてコメントさせて頂きます。皆、とても素晴らしい内容でした。

### 【第2位】「助かった命」／叶かずゆき

叶かずゆき氏（俳優・タレント）の実体験です。2020年に脳動脈瘤が見つかり手術。原因は特定できないものの、命を救ってくれた主治医の言葉「タバコは100%死ぬよ」をきっかけに、タバコはきっぱりとやめました。毎日を生きられることの感謝と喜びが伝わってくるCMです。

### 【第2位】「【Q&A】加熱式タバコの真実」／KRC

紙巻きタバコと比べて何となく健康に良さそうなイメージの加熱式タバコ。本当でしょうか？このCMではQ&A方式で素朴な疑問に答えました。「Q1：健康被害」「Q2：他人への害」「Q3：禁煙補助に使える？」「Q4：かっこいい？」。単なるイメージではなく、科学的に役立つ知識を持つきっかけになりますね。

### 【第2位】「自分の身体と話し合おう」

／田部ゼミD班

「脳」「肺」「心臓」「歯」という人体の大事な部分に参加するオンライン会議。それぞれが最近調子悪いことについて報告、そんな会議中にもトラブルが発生。喫煙の悪影響を受けやすい体の部分を擬人化して「自分の身体と話し合おう」というメッセージを印象的に表現しました。

### 【第2位】「禁煙を促進する検証動画」／NOVA

インターネット上に玉石混交の情報が溢れる時代。このCMでは、シンプルに科学的な検証を表現しました。「タバコを吸うと肺はどうなるのか」「タバコの匂い」「タバコの環境被害」。余分な情報を省いて観察すれば、喫煙の事実はどんな風に見えてくるのでしょうか？

### 【第2位】「喫煙者のトリセツ」／常石 優正

JTが長年続けているマナー広告シリーズへのアイロニーをこめたCM。タバコは健康問題ではなくマナーの問題だとアピールしたいJTに対して、こちらのメッセージは「あなたが止めればすべてが変わる」。JTがイメージ広告を続けている間にも、時代は大きく変化していますね。

### 【第2位】「作家・内田かずひろさんが語る 禁煙して変わったこと」

／柘野 浩一と八木 賢二郎

喫煙歴40年だった内田かずひろさん（マンガ家・絵本作家）が語る禁煙についての思いを自然

体で表現したCMです。歌人の柘野浩一さんたちのチーム作品。お二人の絵本に内田さんがサインとして書いた言葉も印象的です。

第3位は8作品（順不同）です。

### 【第3位】「長生きする方法を教えてください」

／みき

今年、世界的に話題となったチャットAIサービス。「長生きする方法を教えてください」と健康について質問すると・・・いったいどんな答えが返ってきたのでしょうか？

### 【第3位】「タバコのない世界へ」／田中 優成

タバコが環境に及ぼす影響について調べた作品。中学2年生からの応募でした。よく学べば、その先には「タバコのない世界」が見えてきます。大人も見習わねば。

### 【第3位】「喫煙とSDGs」／塚田 ひかり

2015年に国連が採択したSDGs（持続可能な開発目標）には「タバコ規制の強化を目指す項目」が含まれています。SDGsに注目すれば、メディアで見かけるタバコ産業のイメージ広告とは違うタバコの姿が見えてきますね。

### 【第3位】「禁煙ラップ」／石渡 大輝

粘土で作ったオリジナルの「タバコ」と「肺」のキャラクターがラップを歌うコマ撮りアニメ。禁煙のメリットを独特の質感でリズムカルにアピールしました。

### 【第3位】「喫煙太郎の改心撃!？」

／ベルカント アニメ部

タバコが大好きな桃太郎一行は、鬼ヶ島で健康な鬼にまったく歯がたたないどころか、逆にお説教されてしまいます。桃太郎の「快進」ならぬ「改心」撃。

### 【第3位】「仕事中のタバコ休憩」／ジリオン

仕事を抜け出してのタバコ休憩。タバコを吸わない人たからは、どんな風に見えるのでしょうか。人形を1コマずつ動かすアニメーションで表現。最後の一言が秀逸です。

### 【第3位】「美味しく食べるために、

禁煙しましょう」／緑

喫煙による味覚への影響に注目。科学的な情報を示しながら、ビジュアルも一工夫しました。禁煙して、食事本来の味を楽しみたいですね。

### 【第3位】「【タバコの支配】編」／工藤 翔

このCMでは、「タバコを吸う理由」をまずは理解、そのうえで、それが「タバコの支配」であることを訴えかけます。自分自身のために、大切な家族のために、禁煙が大切です。

【ふじもと・よしかず＝ラジオディレクター／REBT心理士／キャリアコンサルタント／『笑って禁煙できる本』（白夜書房）著者】

## たばこ塩の博物館特別展に異議あり ～ニコチン依存症だった芥川龍之介～

10月28日の毎日新聞都内版で「文豪・芥川竜之介がみた江戸・東京」と題する特別展の紹介記事が掲載された。これは10月5日の読売新聞に次いで2回目で、国際条約に違反しており、日本禁煙学会では、作田学理事長と渡辺文学（CSR監視委員会委員長）の連名で「忠告文」を送った。

### 毎日新聞 東京版デスク様

本日の貴紙東京版「芥川が観た東京の変化」を読んで一言申し上げたいと思います。

この「たばこ塩の博物館」は、日本も締結しているFCTC（タバコ規制枠組条約）に違反する施設です。具体的には、同条約の第5条3項に「締約国はたばこ産業の行う企業の社会貢献活動（CSR）を承認、支持、協力、参加しないこと」とあるように、この博物館そのものがJTのCSR活動の一端と言えます。

「博物館」という形態をとりながらも「たばこは文化」であり、貴重なレガシー（未来へ受け継がれるべきもの）であるかのように装い、小・中学生の来館を積極的に受け入れ、喫煙や受動喫煙の害についての展示や指摘は全くありません。

これは、喫煙人口を減らしたくないというJTの思惑があるからにはほかなりません。

芥川は、自身でその生涯を閉じてしまいましたが、多目的コホート研究によれば、たばこを吸わない人に比べて、たばこを吸う人は30%自殺のリスクが高いとされています。

また、芥川の著書『歯車』では、自身が片頭痛に悩まされていることを告白していますが、ニコチン依存症患者にはよくあることです。

芥川の「悩みの種」はほかにもあったかもしれませんが、たばこはその有力原因と言えるのではないのでしょうか。

日本禁煙学会では、JTのさまざまな取り組みの欺瞞性を指摘したパンフレットを作成し、国際条約に違反している事実を広く世に訴えてきました。『タバコ産業がやっている やってはいけないこと』というパンフレットに目を通して頂き、今後このような取材・報道を行わないよう、強く要請する次第です。

【先に読売都内版デスクと論説委員室、編集局長、学芸部長にも、同様の手紙を送りました。また東京新聞にも10月30日に同じ内容の記事が掲載され同様に手紙を送っています。】

## 喫煙所問題 欠けている大前提

やめたいと思いながら吸っている喫煙者  
—喫煙所を無くすことが最重要課題—

禁煙ジャーナル編集長 渡辺 文学

そこに喫煙所（灰皿）があるから吸いたくなる—それが「喫煙者」の心理です。故平山雄博士の調査・研究によれば「喫煙者の9割以上は、内心やめたいと思いながら吸っている」と口を酸っぱくして警告していました。

私もその一人で、思い起こせば46年前、1日にハイライトを60本も吸いながら、毎日「やめたい」「やめたい」と思いながらも、ニコチンの魔力で「吸わされていた」苦い記憶があります。

昔、イギリスの登山家ジョージ・マロリーは、あるとき、新聞記者にこう尋ねられました。

「貴男はなぜエヴェレストに登るのか」と。

この質問にマロリーは「そこにエヴェレストがあるから」と答えた有名な話があります。

そうです。スモーカーは「そこに喫煙所があるから吸いたくなってしまう」ものなのです。

「やめたいと思いながら、吸わされている」—多くの人はニコチン依存症であり、今では「病人」と認定されています。では、なぜ多くの喫煙者は、喫煙所や灰皿、また、テレビや映画の喫煙シーンを見たりすると、すぐ吸いたくなってしまうのでしょうか。

ニコチンの依存性については、「身体的な依存」と「心理的な依存」に分類されていますが、喫煙者は喫煙所や灰皿の存在を認知すると「心理的な依存」状態を一層高めてしまうから—という経験（体験）を当時は重ねてきました。

したがって、これら「喫煙所」（灰皿）の無い社会環境を整えていくことは、政府や自治体、民間企業経営者、そしてメディアの大きな役目ではないのでしょうか。

それにしても、最近のJTの「喫煙所設置」の動きは異常です。地方自治体や民間企業・団体に盛んに働きかけて、駅周辺、繁華街、飲食店などに「喫煙所」「喫煙室」を設けることに躍起になっています。

特に問題なのは、地方自治体がたばこ税を貰っているから、という理屈でこの「喫煙所」を容認し、多くの県議会や市議会議員も、これを推進していることです。世界の流れに逆行する喫煙所設置の動向に、私たちは断固反対し、全国各地の喫煙所を撤廃するための取り組みを継続・強化していく必要性を改めて認識しています。

## ＜メディア・ウオッチング＞

■10/24『日刊ゲンダイ』[健康至上主義と過剰規制④]「『屋外の灰皿撤去』キャンペーンを展開する秋田県の実情」。秋田県が実施した受動喫煙防止事業のキャンペーンは①アンケート回答率が低く、十分な検証結果が得られたとは言えない②「受動喫煙防止対策」に名を借りた喫煙排除だ③喫煙所を整備することも自治体の役目、といった内容

■10/25『日刊ゲンダイ』[健康至上主義と過剰規制⑤]。①知事や健康福祉部長の答弁から、禁煙推進という流れをつくろうとしている姿勢が明らか②駅や空港などさまざまな人が集まる場所は、喫煙排除ではなく分煙環境の整備が必要③健康福祉部の事業概要には「受動喫煙ゼロ そして禁煙」の記載。最終目標は禁煙であるとしか思えない、といった内容。秋田県は最大級の言葉で賞賛された、と受け止めれば2回にわたるこの記事も悪くない(笑)

■11/4『神奈川新聞』「たばこ事業法違反などの疑い」。①盗品等有償譲り受け罪とたばこ事業法違反の疑いで中国籍の男を逮捕②盗品は加熱式たばこ12カートン③無登録でたばこの卸販売業を営んだ④容疑者は「たばこを売ったのではなく、中国へ送っただけ」と容疑を否認、といった内容

■11/6『東京』[ニュース あなた発]「明治大に喫煙所設置したけど…」「キャンパス周辺減らぬ吸い殻」。明大駿河台キャンパスで、喫煙所を廃止したものの、路上喫煙が増えて再設置。だが、吸い殻は「ほとんど減っていない」として、住民の提案①再設置の周知②携帯灰皿配布、を紹介。記事は問題の本質を「喫煙所」「吸い殻」で矮小化しているので、喫煙人口の減少に歯止めをかけたい側が読めば一安心(笑)

■11/15『産経』「スクランブル交差点で浮かんだ渋谷の今」「『渋谷ジャック』」と『喫煙マナー』」。①渋谷には改造車による危険運転がみられるが、たまたま改造車の運転手が「ハンドル操作を誤った」ことで、2人の重傷者を含む男性7人が負傷②負傷者の中には喫煙所からはみ出し車道で吸っていた、という事実がある、という構成で“喫煙マナー”の重要性を無理やり読者に認識させようとした苦心惨憺の記事。末尾は①「喫煙スペース外で吸う人に、高齢の男性啓発員が注意すると『うるせえ』と暴言を吐かれることもある」②啓発員をする女性は…「たばこを吸うなどとは言わないが、マナーを守ってほしいと思う」と強調した、となっている。人が密集する場所では喫煙しないことが「マナー」です、とはやはり書けないようです(笑)

■11/11『日刊ゲンダイ』「笑いの殿堂NGKに大阪市指定喫煙所がオープン」。①なんばグランド花月(NGK)の喫煙所がリニューアルされ、新たな大阪市指定喫煙所「THE TOBACCO NAMBA」として一般開放された②この喫煙所は指定喫煙所設置経費等補助金を活用③喫煙所は、喫煙所ブランド「TOBACCO」を運

営する憐コソドが開発④横山市長「分煙を進めて快適に過ごせる大阪にしたい」、といった内容。記事の下に渡辺編集長のコメントが。「『やめたい』と思いながら吸い続けているのが喫煙者の実態。喫煙者の7割以上は禁煙願望を持っており、喫煙所はやめたい喫煙者の『禁煙』の意思・意欲を妨げている」

■11/15『東京』[健康まっぴ]「加熱式移行は有益?」①フィリップモリス・インターナショナルの研究結果について、藤原久義・兵庫県立尼崎総合医療センター名誉院長らが根拠の乏しさを指摘する論文を米心臓協会の学術誌に発表②藤原名誉院長「受動喫煙防止など喫煙規制による効果がすぐに表れるのはACS(急性冠症候群)のデータだ。それを出さずに都合のいいデータだけを発表したのでは」③PMIは、研究結果を紹介する動画を「研究のデータ解析が不正確だった」として削除、といった内容

■11/17『日刊スポーツ』「『煙のない社会を目指す』フィリップモリスジャパン」「たばこ増税に関するセミナーを開催」。①PMJの小林献一副社長「EU加盟国で平均63%、OECD加盟国で平均55%程度、加熱式たばこの税率が低く設定」と述べた②R.M.ルイス氏「国外の税制策の考え方とあるべきたばこ増税」と題して講演

■11/23『産経』「ゴミ拾い W杯 海守る」「スポーツ化 渋谷で21カ国競う」「プラ対策さらなる強化求める声」。①スポGOMIは2008年に馬場塚健一代表理事が考案。拾ったごみの種類によって獲得できるポイントが異なり、制限時間内により多くのポイントを獲得したチームが勝ちとなる、という仕組み②海洋プラスチック対策に注力する日本財団が「海のごみの約8割は陸で発生している。対策の第一歩はごみ拾いで、海を守る最後のとりでだ(笹川陽平会長)として賛同、W杯の企画や支援を手掛けた③記事に「吸い殻」の文字が1カ所見られるが、本紙「禁煙ジャーナル」本号に掲載されたような問題提起(紙巻きタバコの環境汚染)は全くない。知っていても書けないということか(笑)

■《タバコ広告》タバコ広告は国際条約に違反するが、10月から11月にかけて、大手新聞各社及び『日刊ゲンダイ』にいわゆる「マナー広告」や「意見広告」が相次いで大きく掲載された。①JTによる「ひろう」を考える午後、と題するものが10月の『読売・朝日・産経・東京』に、『日経』は11/9②PMジャパン社による「加熱式たばこの増税は、社会に大きな影響を及ぼす可能性があります」と題する意見広告が11月の『読売・朝日・日経』に③JTによる「大人たばこ養成講座初級編 喫煙所のお作法」と題するマナー広告が11/15に④JTによる「吸う人と吸わない人の距離を喫煙所で作るのだ!」と題するマナー広告が10/31の『日刊ゲンダイ』に、それぞれ掲載。タバコマナーの魅力には勝てず「みんなで渡れば怖くない」を演出した(笑)。

【氷飽健一郎】

展望台

◆クリスマスのプレゼントは何がいい？喫煙所はどうかね。JTサンタは金持ちだ。これまでもコンビニやスーパー、色んな所に灰皿をプレゼントしてきた。今流行りの立派な喫煙所でも構わない。JTサンタは分煙のためなら、金も人も出すからね。喫煙者と非喫煙者の共存が、何より大事だ◆そんな悪魔が夢枕に立ったのか。はたまたバカボンパパの「喫煙所がいいのだ！吸う人と吸わない人の距離を喫煙所でつくるのだ！」のCMに洗脳されてしまったのか。喫煙所を望む声の一部が大きくなってきた◆A市の市長はオープン前の喫煙所で「JTの協力でできた」と笑顔で記念写真をパチリ。勿論FCTC第13条を無視してJTから寄付を受けるのは論外だが、それなら行政が税金で造れば良いだろうと、あちこちの地方議員が喫煙所の設置を画策する、受動喫煙対策を口実にして。O市では2025年までに最低120カ所の喫煙所を増設するという。いや、市長はそれでは足りない、300カ所以上必要だ、と考えているそうだ。彼らの目標は「喫煙者と非喫煙者が共存できる分煙環境の整備」である◆だがちょっと待て。日本を喫煙所だらけにすれば、受動喫煙被害は減らせるのか？喫煙問題は解決するのか？健康増進法の目的は、国民の健康の増進を図るための措置を講じ、もって国民保健の向上を図ることだ。国民には、健康な生活習慣の重要性に対する関心を深め、生涯にわたって、自らの健康状態に関する関心と理解と自覚し、健康の増進に努める責務がある。国や地方公共団体には、健康の増進に関する正しい知識の普及等の責務がある◆喫煙所を造ったとしても。タバコ煙は排気装置から外に出されるし、出入の際にも外に漏れ、周辺で受動

喫煙被害を起こす。他人のタバコ煙は吸いたくないと喫煙所の中へは入らず、周辺で吸う喫煙者もいる。喫煙者は呼気や髪や衣服に有害物質を含んだまま電車やバスやタクシーに乗り込み3次受動喫煙加害者となる。清掃員も残留煙や吸い殻で被害を受ける◆喫煙所は喫煙問題を解決しない。非喫煙者も喫煙者も救わない。喫煙者の多くは、タバコは嗜好品だと信じて手を出してしまい、やめられなくなってしまった人達だ。禁煙を志したとしても喫煙所は喫煙のトリガーとなる。また、若者の好奇心を操り、新たな喫煙者を生んで育てる場所となる◆秋田県では小規模飲食店が取り組む【喫煙所の撤去】等に最大10万円を交付する。なんてステキなプレゼント。分煙環境の整備なんてタバコ産業が勝手に言っているだけ。健康増進法に則れば、必要なのは禁煙環境だ。「吸えない環境」を整備し、禁煙外来への誘導等の禁煙支援こそが行政のやるべきことである。真心サンタにプレゼントを聞かれたら、紙タバコの煙も加熱式タバコの蒸気も無い環境、即ち国民全体の健康を目標にした「真の受動喫煙防止政策」をお願いしたい。【斉藤 由美】



無煙賛歌

芥川展 毎日・東京も追いかける  
全面広告の見返り記事か

BATロシア事業から撤退声明  
さあどうするかJTは

渋谷区のスクランブルの交差点  
車に轢かれたはみだし喫煙

ごみ拾い世界大会開かれた  
海を汚すプラスチックなくせ

目に余るJTとPMの新聞広告  
国際条約を完全に無視

富美里

【雑記帳】 私の好きな作家は、椎名誠、東海林さだお、藤原正彦氏などです。この方々のコラム、エッセイなどを選んで、単行本になっているのを読んできましたが、一度目を通して文章でも、1冊の本になってから読むと、また別の感動を覚えるケースが度々ありました◆私も、嫌煙権運動の発足から現在まで、多くの新聞、雑誌、専門誌などに雑文を書いており、今年、「嫌煙権運動」の45周年を迎えた機会に、これが1冊の本にならないものか、と考えました◆頭に浮かんだのは、2003年にプロ野球の鳴り物応援をなくしたいという思いで『よみがえれ球音』を刊行して頂いた花伝社でした。平田勝社長と大澤葉実氏に、この私の願いを伝えたところ、即断で刊行OKと言うことになり、沢山のスクラップを、花伝社に持参しました◆11月2日、大澤氏が私の事務所に足を運んでいただき、膨大な資料・文章を取捨選択して頂き、来年1月にも『日本嫌煙権運動史』の刊行となった次第です◆嫌煙権運動を45年間も続けてこられたのは、故人として平山雄、浅

野牧茂、中田喜直、穂積忠夫、通木俊逸などの諸氏であり、現在活躍中の方々としては、作田学、平間敬文、伊佐山芳郎、齋藤麗子、大和浩、田中潤などの各氏と、『禁煙ジャーナル』愛読者の皆さまに、この本を捧げたいと心から願っております。(文)